

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年7月29日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 人間・環境学研究科

職 名 教授

氏 名 阿 辻 哲 次

事業区分	平成21年度・短期招へい助成		
招へいた研究者	所属・職名	キルギス共和国・ビシケク市・キルギス日本語教師会・会員	
	氏 名	ヴォロビヨワ・ガリーナ Vorobeva Galina	
研究課題名	ロシア語圏と英語圏の日本語学習者向けの中級の教科書『漢字物語千一話』の作成を目指す漢字の構造分解と基本的な構成要素の意味の調査		
招へい期間	平成21年 7月 3日 ~ 平成21年 7月 29日		
招へい成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無		
会計報告	交付を受けた助成金額	420,000 円	
	使用した助成金額	420,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	航空券	160,000 円
		宿泊・日当	260,000 円

ロシア語圏と英語圏の日本語学習者向けの中級の教科書『漢字物語千一話』の作成を
目指す漢字の構造分解と基本的な構成要素の意味の調査
成果の概要

キルギス日本語教師会会員 ヴォロビヨワ・ガリーナ

ロシア語圏と英語圏の日本語学習者の興味を高めるために中級学習者用として日本語能力試験2級の漢字1000字程度を対象とする『漢字物語千一話』を作成することを計画している。漢字を覚えるための連想的なストーリーを作るために漢字の構造分解と基本的な構成要素の意味の調査をした。

1. 教科書の作成の動機

漢字の勉強をする非漢字系の日本語学習者の悩みは以下のようなものである。

- ・ 漢字を非体系的に感じる。
- ・ 学習漢字の数が多。
- ・ 字形、字義、読み方の結び方が分からない。
- ・ 同時に字形、字義、読み方、筆順、単語を覚えなければならない。
- ・ 一時的に漢字を覚えても定着できない。
- ・ 漢字字典の調べ方は難しい。

そこで非漢字系の日本語学習者の漢字学習を助けるために漢字の教科書を作成することにした。

2. 教科書の特徴

- ・ 漢字の歴史や成り立ちを教える。
- ・ 漢字の書記素、その書き方、漢字の筆順を教える。
- ・ 部首と部首ではない構成要素の意味と書き方を教える。
- ・ 「簡単な漢字から複雑な漢字へ」というように教えるためには漢字の複雑さと使用頻度に基づいて漢字の合理的な掲出順序を決める。
- ・ 漢字の構造分解をもとに連想的なストーリーを教科書の中心にする。
- ・ 非漢字系の日本語学習者にとってなじみのある効率的な新しいタイプの漢字のアルファベット・コード索引とシンボル・コード索引とセマンチック・コード索引を構築する。

3. 日本滞在中の成果

- ・ 漢字の歴史に詳しい漢字研究者と交流でき、最新の研究成果に接した。
- ・ 研究テーマに関する図書館所蔵の資料が利用できた。
- ・ 書店にて研究テーマに関わる本をたくさん購入した。
- ・ 阿辻教授の講義と学位論文申請者の公聴会に参加した。

4．本研究の内容

漢字の構成要素の意味について調査し、合体文字の成り立ちについてより分かりやすいストーリーが作成できる資料が準備できた。また収録予定の漢字を構成要素に分解し、『大漢和辞典』（諸橋轍次）などによって204字のグラフィクムを確認した。これにもとにさらに連想的なストーリーの作成が可能になる。

また「新常用漢字表（仮称）」に関する試案を入手し、日本における漢字の現在の動きが分かった。

5．期待される効果

本研究の成果を元に漢字1000字くらい含めたロシア語圏と英語圏の日本語学習者向けの中級の教科書『漢字物語千一話』を作成する。それはキルギス共和国およびロシア語圏諸国などの日本語教育、漢字教育に関して貢献をする。